令和5年度 自己評価表

鳥取県立鳥取西高等学校

教育目標	藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継ぎ、高い志を持ち、幅広い教養を身につけ、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間を育成する。
中長期目標	1 生徒が学問の意義に目覚め、深く学ぶことの喜びを実感できる質の高い教育を推進する。 2 生徒が確かな学力を身に付け、自己の将来像を描き、進路目標を実現できる教育を推進する。 3 生徒に良識を培い、自律と規範、自立と共生の精神を涵養することによって、社会のリーダーとなる素養を育てる。 4 教科の学習とともに、部活動や学校行事等の体験的活動への積極的参加を通じ、知徳体のバランスのとれた人間の育成を図る。

今年度の重点目標	『深い学び』『幅広い学び』を通じて新時代を創造するリーダーの育成を図る ① 学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究し、実践する。 ② 生徒が高い進路目標に挑戦しその目標を実現できるよう、戦略的に進路指導を進める。 ③ SSH事業やSGH関連事業を組織的に推進し、科学技術系人材やグローバル人材の育成を図る。 ④ 生徒の良識を培うと共に、挨拶を含め生徒の社会性を高める。 ⑤ 部活動に積極的に参加し上位大会を目指すと共に、その他スポーツ・文化芸術等各種大会・コンクール等へも積極的に挑戦する。

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年度当初				評価結果( )			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
深く学ぶことの喜びを実感できる授業の研究・実践	○学問の奥深さに触れられるような授業実践 ○協同的・対話的な学習、ICTの主体的な活用 ○SSH(スーパーサイエンスハイスクール)/SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業の推進、課題研究の実践と改善	○生活評価アンケートで「授業や各種の行事により教養や関心の幅が広がった」生徒が89%、「自ら学ぶ意欲が高まっている」生徒が87% ○授業アンケートで「授業で学びが深まった」とする生徒が79% ○ICTを活用した協同的・対話的な学習の機会拡大に継続して取り組んでいる。 ○SSH等の研究・開発により課題研究が充実し、生徒の「主体的に探究する力」が高まってきたが、グローバルな視点に触れる機会が減少している。	○生活評価アンケートや授業アンケートにおける学校での学びの充実に関する肯定的な回答が8割超。 ○生徒が情報端末を授業などで有効に活用している。 ○ESD等の視点から、対話的・探究的な学びにより学問の奥深さに触れる課題研究が展開され、生徒の科学的な素養が高まり、グローバルな視野で物事を考えている生徒の割合が増加している。	○授業見学等を通じた授業改善の推進。 ○課題研究メソッドやICT機器を活用した課題研究・探究学習の方法を習得。 ○SSH等の研究開発を通じた、生徒の主体的な探究学習の深化。			
進路目標の設定と、その実現に向けた確かな学力の育成	○面接・キャリア教育の充実 ○戦略的な進路指導の実施	○面接期間を軸に随時面接指導が行われ、キャリアパスポートの活用等、キャリア教育への取り組みが進んだ。 ○各種調査を通して、生徒の学習意欲の向上や進路意識の育成に努めている。また、「主体的に探究する力」の育成に努め、進路実現に結実させた生徒がいる。	○キャリアパスポートや各種調査・資料が十分活用され、多くの生徒が進路目標を定め、自律的に学習できている。 ○生徒や保護者に必要とされる進路決定のための情報が十分に提供され、これらを生かして生徒自身が「学び」を運用している。 ○大学合格者数が、国公立大学230名、難関10大学・医学科60名超。	○きめ細かい面接指導の継続と、各種調査・資料のより高い進路目標の維持・達成のための利活用。 ○進路決定や大学入試に向けた積極的な情報発信。特に変更点の多い2025年度入試の情報については重点的に情報を収集・提供。 ○生徒の粘り強く取り組む力や困難を乗り越えようとする力を育てるため、「Grit(やり抜く力)」に着目した視点をもつ。			
良識を培い、社会性を高めるための指導の推進	○自主・自律的な学校生活、自発的な挨拶の習慣 ○地域・社会との良好な関係を醸成 ○互いを思いやる心の涵養	○多くの生徒が規則を守り、落ち着いた学校生活を送っている。挨拶をする生徒は増えてきたが、自ら挨拶する生徒は多くない。 ○保護者の学校に対する関心・期待は高く、保護者と学校が連携して高い教育力を維持している。 ○日常生活の中で人権について考える生徒が多く見られるようになってきた。	○「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合(アンケート)が90%以上。生徒同士や教員・来校者への挨拶が自然にできるようになっている。 ○生徒実態に即した学校の教育目標が保護者に伝わっており、連携協力が一層図られている。 ○生徒間で、自他の人権を尊重しながら人間関係を構築していこうとする態度が育まれている。	○規則の意味を理解させるとともに、あいさつ運動に取り組むなど、マナーを身につけた生活ができるよう、きめ細かな声掛けを行う。 ○生徒の様子や学校の教育目標などをより目に見える形で保護者へ伝える工夫を行う。 ○生徒の主体的取り組みに積極的に関わり、生徒の社会性を育み、人間関係作りをサポートする。			
部活動や体験的活動、対外的な大会や発表会等への積極的な挑戦	○部活動への積極的取り組み ○部活動以外の各種体育・文化・芸術活動等への参加 ○対外的な学術研究会、発表会等への参加の促進	○生徒が主体的に自身の生活のあり方を考えられるようになってきた。県大会ベスト4以上の運動部活動は12、中国大会以上の文化部活動は8と、成果も上がっている。 ○授業での活動を対外的な評価につなげている教科もあれば、部活の成果として好成績を収めている取り組みもある。 ○各種研究会・大会等参加生徒数は258人、国際大会・全国大会で功績をあげた生徒は36人。	○多くの生徒が学習と部活動を両立させている。 ○職員間の連携を密にしながら、生徒個々に対応した支援が行われている。 ○各種研究会・学会や大会等参加生徒数の規模を維持する。また、研究内容の質の向上や、社会や学術に貢献する研究が一定程度なされている。	○教員の専門性等を生かしつつ、活動計画等を活用した効率のよい部活動指導を研究する。 ○各種研究発表会・コンテスト等に関する情報を分かりやすく提示し、生徒が段階的に参加できる環境を整える。 ○生徒の活躍を積極的に広報するとともに、外部機関等との連携をはかりながら、生徒が積極的に「挑戦していく」ことへの支援を行う。			
業務改善の取組	○業務の効率化、簡素化 ○長時間勤務者の解消	○昨年度時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均10.8人、360時間/年超の職員が26人。 ○部活動の時間外指導時間30時間/月超の職員が延べ39人。 ○学校行事等には見直しの余地がある。	○時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均5人、360時間/年超の職員が10人。 ○部活動の時間外指導時間30時間/月超の職員が延べ10人。 ○学校行事等整理の具体案が提示できている。	○校内分掌に専担の係を設置。 ○教員自身がより勤務時間管理を行うことができるよう手立てを施す。 ○部活動計画表を確認し、計画の修正を依頼することで時間外指導時間の縮減を図る。 ○学校行事等の統合や精選。			